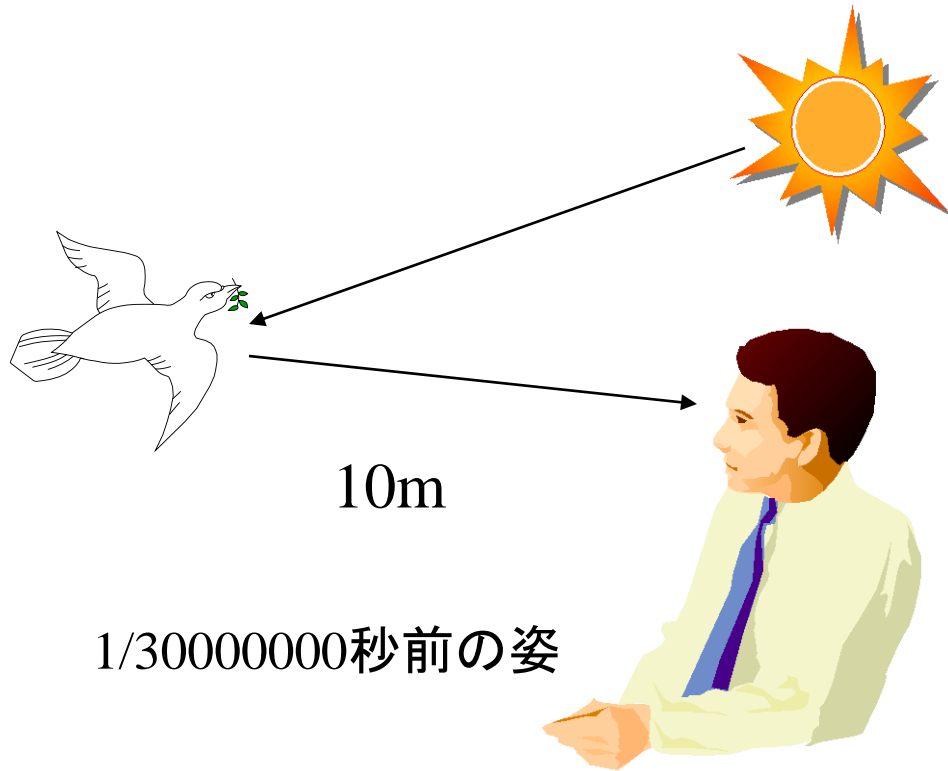


# 観測するとは？



1/30000000秒前の姿



世界を観測するとは、どういうことだろうか？  
例えばある人が鳥の羽ばたいている様子を観測したとしよう。それは鳥から発せられた光が、人間の目即ち網膜に進入してきたことを意味し、鳥そのものが目の中に飛び込んで来たわけではない。もちろん鳥は自ら光っているわけではない。太陽からの光が鳥にあたり、そこで反射された光を見ているのである。ネオンサインや夜空を彩る恒星は自ら光を発している。しかしその場合でも、恒星そのものが目の中に飛び込んできたのではない。あくまで検知したのは光である。人間は目で光を感じることが出来る。これを視覚と言う。今日で見えている世界は今現在の様子を表しているわけではない。なぜなら光の速度は有限だから。もし自分と鳥の間の距離が10mだったとしよう。今見ている鳥の姿は、1/30000000秒前の姿である。遠くの恒星や銀河などは何年も、いや何万年も前の姿である。遠方を見るということは即ちそれだけ過去を見ているわけである。

左の絵は、夜空に輝く星とその前にいる女性である。星までの距離が10光年とすると、この星の輝きは10年前のものである。それに対して目の前の女性は今の姿である。重なって見える二つのは実際は何の関係もない。見ているものは今現在の真実の姿を現しているのではない。いや違う。今正に見えているものこそが唯一の真実である。星と彼女はやはり一体でなければならない。